

件 名 ノーラ名栗の運営状況について

令和3年4月29日にグランドオープンをしましたノーラ名栗の運営状況等についてご報告いたします。

1 利用者数、予約状況等について

令和3年4月から7月までの利用者数は44,168人となり、昨年度利用者数の約60%をわずか4か月で達成しました。これは、ノーラ名栗が昨年8月にオープンしてから約1年が経過し、様々なメディアへの露出による知名度上昇と、グランピングエリアの運営開始が始まったことによる相乗効果によるものが大きいと認識しています。

また、グランピングの予約状況については、夏休み期間中は9割ほどが埋まりほぼ満室の状態です。

〈利用者数の比較〉

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
4月	4,421人	626人	8,651人
5月	5,805人	0人	14,640人
6月	5,183人	4,218人	9,755人
7月	1,486人	6,817人	11,122人
7月までの合計	16,895人	11,661人	44,168人
年度合計	44,623人	72,856人	—

※令和2年度4月及び5月は緊急事態宣言による休業期間あり

2 オープン1周年プレゼント企画、体験ツアーの実施について

昨年8月のオープンから1周年が経過したことを受けて、カフェアンドショップヤマセミでの購入者向けに、名栗地域の特産品である名栗まんじゅうや原市場地区のじゃがいもを購入特典とするプレゼント企画を実施しました。地元農産物の周知も兼ねることができ、利用者にも大変好評の企画となりました。

また、観光コンシェルジュ発案の「棒ノ嶺ツアー」を山岳ガイド経験のある従業員による3名参加の下、実施しました。今後も観光案内にとどまらず、ツアー

の企画や地元観光施設との相互連携等、観光コンシェルジュ機能を強化してまいります。

3 メディアでの紹介について

グランドオープン後においても、多数のメディアに取り上げられ、ノーラ名栗の情報が全国に発信されています。

局名／雑誌社名	番組名／雑誌名	内容
フジテレビ	めざましテレビ	著名人による施設全体の紹介
B S・T B S	スイモクちゃんねる	施設全体の紹介
テレビ埼玉	いまドキッ！埼玉	SAUNA CLUB の紹介
ぴあ	夏ぴあ首都圏版 2021	施設全体の紹介
扶桑社	週刊 SPA!	SAUNA CLUB の紹介

4 地域への波及効果について

(1) 地域雇用の状況について

ノーラ名栗における事業開始に伴う新規雇用者は36人で、うち市内在住者は24人となっており、地域雇用創出の場となっています。新型コロナウイルス感染症の影響により自粛しているマルシェやイベント等を実施することになれば、今後さらに増加していくことが予想されます。

(2) 教育現場との連携について

名栗小学校からの申し出により、名栗小学校の児童を招いて、ノーラ名栗の施設見学会を実施しました。児童からは、「名栗の木がたくさん使われているんだね。」「ステージの上で合唱ができたなら気持ちいいね。」などの意見が寄せられました。今後は、地域の歴史や森林体験プログラムの授業等をノーラ名栗を利用して実施していくための協議を重ねてまいります。

〈名栗小学校の見学会の様子〉



(3) 商店街等との連携について

飯能商工会議所を通じ、市街地事業者の商品をノーラ名栗での販売やマルシェへの出店に向けて検討を行っています。また、市街地事業者にとどまらず、市内事業者からノーラ名栗での活用についてご意見をいただいております。活用方法について検討を重ねています。引き続き、市内事業者と連携し、ノーラ名栗での陳列商品の拡大に向け、農林産物直売所の機能強化に鋭意取り組んでまいります。

(4) 奥むさし飯能観光協会との連携について

奥むさし飯能観光協会とは、双方で観光コンシェルジュを配置していることから定期的に意見交換会を実施しています。また、名栗地域をはじめとする市内の観光施設を巡る観光研修等も複数回実施し、互いの知見向上に努めています。今後も、飯能市エコツーリズム推進協議会を通してのツアー実施など、相互に連携を図りつつ、市内における広域的な観光政策の更なる発展に取り組んでまいります。

(5) 特産品の開発について

カフェアンドショップヤマセミ内の加工室を使用し活動している「なぐり特産品協議会」と連携し、季節限定の新茶まんじゅうや平九郎まんじゅうの販売を実施し、利用者から好評の声をいただきました。また、現在、精明地区農家とも連携し、果樹を使ったアイスクリームやジャムの商品化に向けて取り組んでいます。今後も、名栗まんじゅうをはじめとする特産品の継承を続けるとともに、新たな商品開発、販売にも注力してまいります。

(6) 市内事業者からの納入状況について

ノーラ名栗で使用する肉や野菜などのバーベキュー食材やテントサウナで使用する薪等、仕入れの多くを市内事業者が占めています。定期的に月約 13 m³ほどの薪を仕入れており、施設内で使用する修繕のための木材等についても木材事業者から納入しており、西川材の利活用を積極的に行っています。

(7) 飯能市民の利用状況について

市民の方が、カフェアンドショップヤマセミやドリンクスタンドで商品を購入し、休憩用テントやステージ前テントにて休憩をされている姿をよく目にします。また、グランピングの宿泊においては、市民特別割引を取り入れています。今後も、市民に利用しやすい施設となるよう、市民サービスを充実してまいります。

(8) 森林の利活用と新たな取組について

飯能市と聖望学園が連携し、森林に放置された間伐材を有効活用する取組を進めています。その中で、今回、聖望学園の生徒が周辺森林の間伐材搬出及び間伐材ベンチの制作を行い、製作したベンチをノーラ名栗の施設内に設置しました。コロナ禍における森林利活用の新たな取組として、今後も活動を継続していきます。

〈間伐材の搬出及びベンチ制作の様子〉



〈施設内のベンチ〉



5 コロナ対策について

従業員については、出勤時の検温、マスク着用、定期的な手指消毒を徹底しています。施設については、定期的な換気、キャッシュレス決済による来客者との接触機会の削減、定期的な備品消毒を断続的に行っています。また、来客者に対しては、マスク着用のご協力、屋内飲食スペースの座席数半減、売店エリアの人数制限を行っています。また、まん延防止等重点措置が適用になった4月から、酒類の提供を自粛しています。さらに、安全安心な施設運営のため、職員によるコロナチェックを定期的の実施しています。

担当者	農業振興課長 犬竹 章
連絡先	Tel 042-973-2122